

# 牛深でも水俣病患者？

## 12年前、似た症状で死亡

不知火海全域の有機水銀汚染を追及している熊本・水俣病を告発する会（本田啓吉代表）の熊本大医学部学生たちは、最近、東シナ海

に面した牛深市でも水俣病に似た症状で死んだ人（三十四年）がいたことがわかったとして、県や熊

市でも住民検診をするよう働きかける。

大第二次水俣病研究班に対し、同

は牛深市久玉町、元船員Aさん

（死亡当時二十六歳）で、両親などの話によると、Aさんは江崎丸船から水産庁（大牟田）の漁業監視船へ出向していた。魚介類が大好物だったが、三十二年はじめて発病、視力障害、言語や歩行失調などを訴え、三十四年一月に死亡した。Aさんは三十三年一月、熊大で診察を受けたが、このときは「てんかん」と診断された。しかし当時主治医だった同市久玉町の中原高四郎医師（入）は告発する会に対し、「適当な病名が見当たらないので、脳膜炎と診断したが、いま考えるとどうも水俣病の疑いが濃い」と証言したという。

これが事実とすれば、水銀汚染

は不知火海沿岸だけにとどまらないことになるが、牛深市は有機水銀をたれ流したチツソとは約五十キロも離れており、熊大が三十年に実施したネコの水銀濃度調査でも問題にならない微量しか検出されておらず、潮流、地形、漁場などの関係から疑問視する向きもある。

山下牛深市保健衛生課長の話  
初耳だ。牛深は潮流や地形からいっても汚染されている可能性は全くあり得ない。漁場も違う。し  
いて言えば、Aさんは船員だったから、水俣の魚介類を食べたことは考えられる。